

令和2年度第1回北海道立函館美術館協議会会議録

- 1 日 時 令和2年10月9日（金） 10:00～12:00
- 2 会 場 北海道立函館美術館 講堂
- 3 出席委員 仲井会長、今村委員、加藤委員、川島委員、小宮委員、武井委員、梨木委員
西本委員、堀田委員、三浦委員
(欠席委員：木村副会長、石岡委員)
- 4 傍 聴 者 報道関係者1名（函館新聞社）
- 5 議 事

(1) 報告事項

ア 令和元年度事業実施状況について

事 務 局：資料1に基づき説明。

委 員：学校教育支援事業のところで、小中学校や高校との連携は分かるが、幼稚園や保育園の子供たちとの関係が分からなかった。幼稚園や保育園の子供たちが来館した際は、学芸員が解説しているのか、またはただ見て回っているのか説明いただきたい。

事 務 局：幼稚園等から依頼があれば、学芸員による解説を行っており、特に依頼がなければ、解説なしで観覧いただいている。

委 員：資料の表記について、今回コロナの影響により休館したということ、事業実施状況やこのあと報告される評価の資料でも冒頭の方で書いてあれば、今後公表することもあると思うので、この休館がいろいろと影響しているということが全体的に分かる。

事 務 局：御意見として承る。

委 員：教育普及事業について、いろいろと地域や教育関係機関等と連携しておられるし、非常に良い取組をしていると思う。参加総数が約1万人となっており、今回は新型コロナウイルスの影響を受けたとのことであるが、基本的に参加人数はずっと伸びてきていると考えてよろしいか。

事 務 局：当館としても、教育普及事業に力を入れて、ここ数年やってきて、約1万人に達したところであるが、この少ない職員体制で、かなり上限、限界に来ている状況にある。今回のコロナ禍を踏まえ、内容等を再度精査しながら、新しい事業展開を図っていきたい。

委 員：作品収集について、日本画3点とあるが、先ほど説明のあった蠣崎波響の作品が3点ということか。

事 務 局：蠣崎波響の作品が2点で、うち1点が画卷、もう1点が屏風。それから、作者が不明の屏風が1点。これら計3点となっている。

イ 令和元年度道立美術館評価に係る評価結果について

事務局：資料2及び資料2（補足）に基づき説明。

委員：基本的運営方針Bの観覧者数について、指標はコロナに関係なく、設定しているもので、評価そのものはその数値に対して評価することなので、「c」ということで、仕方ないと思うが、例えば、年間の観覧者を考えた時に、（臨時休館した）3月の1ヶ月分が12分の1に単純にならないとすると、3月に入った観覧者が全体の大体3%とか4%だったとした時に、それまでの数字が仮にどうだったのか。コロナの影響のない時は十分に目標を達成していたが、コロナの影響で実績は指標値に達しなかったというところもあると思うので、そうすることによって、それまでのところが評価できるのかなと思って見ていた。それから、質問だが、観覧者の満足度は何かアンケートを取っているのだと思うが、アンケートは観覧者の何%ぐらいの方がお答えしているのかを分かれば、教えてほしい。

事務局：観覧者数については、御指摘のとおり、ある程度推定でコロナの補正を入れて、数字を出せば、より高い評価に繋がった可能性もある。今回そこまでは考えていなかったのので、この評価項目の評価は「c」ということになってしまったが、今後に繋いでいきたいと思う。また、アンケートの観覧者数に対する回答率までは把握（計算）していない。

委員：基本的運営方針Eの地域文化の振興の学校との連携の状況のところであるが、市内の小・中・高等学校や大学等との連携について、小・中・高等学校卒業後、大学や専門学校への進学までは市内にということ、特に小・中学生に美術館の良さを教えていくということは大事なことであり、入館者の増加にも繋がるので、是非引き続き進めていただきたい。また、資料に学校ごとに対応した件数が書いてあるが、全体として何校あって何校対応したとか、できれば、今まであまり美術館と関わり合いのなかったような小・中学校等に対しても、美術館側から積極的に声を掛けて、たくさん子どもたちに美術館に来て美術作品を見てもらおう機会を提供してもらいたい。

委員：この評価の指標は全道のどこの（道立）美術館でも同じ指標でやっているものなのか、それとも、美術館ごとにそれぞれ指標を設定して評価しているものなのかをお聞きしたい。評価指標のうち、メールマガジンの発行について、財団発行の情報誌ステップ・アップへの投稿がここの美術館で発行したものではないから0回で0%というのはとても残念。

事務局：全体の項目としては、（各道立美術館）共通のものとなっているが、各館の状況によって、設定していない項目もある。メールマガジンの発行については、当館の認識の誤りで、ステップ・アップへの投稿を実績とすることを想定して、12回発行として指標値を設定してしまったが、当館主体でメールマガジンは発行しておらず、次回の評価からは、実施なしとして、指標値を設定しないこととした。メールマガジンについては、他の道立美術館でもほとんど実施なしとしている。ただし、北海道教育委員会で発行しているメールマガジンには、各

道立美術館の展覧会開催情報を掲載しており、そういった意味で全く取り組んでいないということではない。

なお、道立美術館の評価については、平成28年10月に定めた実施要綱に基づき、平成29年度から3年間実施したものであり、本来であれば、道教委で、今年度、各美術館協議会委員の皆様からの意見をいただいた上で、評価の見直しについて、進めていく予定ではあったが、コロナの影響もあり、スケジュールがずれ込んでいる。改めて見直しをするということになれば、この協議会にも諮っていききたいと考えている。

(2) 協議事項

ア 令和2年度運営計画について

事務局：資料3に基づき説明。

委員：コロナの影響で、いろいろと中止になったり、延期になったりしているというイベントが多い。特別展「やなせたかしの世界」については、大幅に開催期間が短縮となり、観覧できなかった方が多いと思う。このため、中止になったイベントにしても、やなせたかしの世界展にしても、同じものをやろうとしても、これから何年後か何十年後かになると思うので、形を変えて、何かの折りに（今回中止や開催期間短縮となったものの）ちょっとした小さなギャラリーツアーでもイベントでも組み込んでいただければ、今回心待ちにしていた方がいらっしやると思うので、良いのではないかと思う。また、書道やお絵かきなどの体験コーナーで、ゴム手袋をはめて何かできることがあれば、やっていたきたい。これまで（新型コロナウイルスの影響で）イベントがなかなか開催できなかった中で、我々、文団協（函館市文化団体連絡協議会）でも少しずつイベントを行えるようになってきたが、市民の皆さんはこれまで何もなくてうずうずしていると思うので、何かやっていただけると有り難いと思った。

事務局：まず、やなせたかしの世界展及び関連イベントについては、できるかどうか分からないが、要望として受け止めたいと思う。また、手袋着用や消毒などによる体験コーナーの関係については、今後の感染状況なども見極めながら、できるところからPRもしながら実施していきたいと思う。

(3) その他

ア 新型コロナウイルス感染拡大防止の取組について

事務局：資料に基づき、経過及び取組について説明を行った。

委員：コロナの関係では、今年度、全道の造形連盟の研究大会があり、函館美術館にも協力をいただき、(函館美術館の特別展「《道産子追憶之巻》と日本画の名品」展で展示する)「道産子追憶之巻」という作品を中心に研究授業を全道の小・中学校の先生方を招いて、7月28日に函館市で実施する予定だったが、造形連盟から今年は中止という判断をいただき、残念ながら実施できなかった。そのあと、8月中旬に市内の小学校で、せっかく本物の「道産子追憶之巻」が函館美術館に来るからということで、先ほどアートカードの話が出たが、北海道教育委員会でアートカードとは別に作成している道産子追憶之巻の小さなパネルにしたものを借りて、函館市内の小学校と中学校で美術の授業をやった後、今度は本物が来るということで、函館市内の小・中学校で実際に函館美術館にお邪魔して個別に鑑賞授業をやらせていただいたところである。

イ その他(全体を通しての意見等)

委員：新型コロナの影響による休館等でいろいろとできなくなり、自分も美術が好きで、函館美術館にも良く見に来ていたので、残念だという気持ちがあった。それから、本日の説明でこれまで気になっていたアートカードが何かが分かったことが良かった。私の子どもにも言える話だが、実際に美術館に行きたいと思ってくれる小学生や中学生が増えたら良いと思っていたので、そこに力が一杯注がれていると今回感じたので、嬉しいと思った。

委員：コロナの影響でどの程度外出して良いのか、外出しても感染したらどうしようという不安があったので、なかなか一緒に美術館に行ってみようかと子どもたちを誘えなかったが、このように感染防止に対して取り組んでいるので、安心して今度のリサ・ラーソン展に来てみたいと思った。

委員：私も総合体育館という場所の運営を担当しているため、コロナ感染者が出ないように閉館していた時期もあり、6月から開館しているが、今回の対策を聞いていて、自分の今金町の対策とすごく重なる部分があった。体育館を2ヶ月ぐらい閉館していた時期に体を動かしたいという要望が後半増えてきたため、体育館は開けられないが、町民の方々にどうやって、体を動かし機会を提供したら良いのかということ職員の中で葛藤していた。今は少しコロナ対応が安定してと言ったら語弊があるが、体育館も徐々に活気が戻ってきているが、また第3波が来た時に、函館美術館も我々の体育館も閉めなければならなくなった時を想定して、(函館美術館は)函館市民の方々や(我々は)町民の方々にどういった事業等を提供できるかなというのが今後の課題であると考えている。

委員：今回の報告や計画の説明を聞いていて、率直な感想としては、すごく幅広い活動、取組を（美術館の）皆さんがされていると思って驚いた次第である。皆さんが言っているように、コロナが早く収束して、地域も早く通常どおりの営業ができるの良いなと願うばかりである。素朴な疑問として、教えていただきたいが、展覧会を開催する会場はどのぐらい先まで決まっているものなのか。例えば、1年後くらいまではスケジュール的に決まっているとか、その辺のスケジュール感を教えてもらえればと思う。

事務局：作品を借りる団体や美術館との関係もあるが、大体3年先ぐらいまでは、既に展覧会を企画している。完全に固定されている訳ではないが、もっと大きな美術館になると5年以上先まで見据えている。3年先と言っても固まっていない部分があれば、新たに入れる余地はあるが、そのようなスケジュール感で大体の美術館は運営している。道立近代美術館では、7年先ぐらいまで見据えている。大きな海外の展覧会では、作品の借用先の美術館だけでなく、巡回している美術館とも連携しなければならないし、人気の作品、例えば、ゴッホの展覧会などでは10年前から取り組んでいかないと世界中から申込みが殺到する。

委員：今年の1月に札幌の道立近代美術館の展覧会に自分も参加させてもらったが、コロナの影響で途中で中止になった。無観客ライブなどがあるが、無観客展示というか、展示はしており会期もあるので、ただ展示室に展示しているだけで、お客さんは来ない状態だった。その時に思ったのが、無観客ライブのような配信について、美術館でもやればどうかと思った。調整等は急な話だとなかなか難しいと思うので、その時は結局できなかったが、アートの世界だと臨機応変に、例えば、携帯電話で撮ったものを動画配信するとか、できる限りの部分だけでもやれたのではないかと、この場で言わせてもらった。

事務局：道教委においても、リモート・ミュージアムとして、臨時休館の期間中に各道立美術館が撮影した所蔵作品の一部の解説動画を道教委のホームページ（各道立美術館のホームページを含む。）で、YouTubeにリンクする形で公開する取組を行っていた。ただ、今現在展示している所蔵作品の動画は撮影できていない状況である。